

『耐震耐震』

報道

「耐震耐震」は、ご自宅の3つの情報で大地震の発生する確率や被災状況をシミュレーションした世界に一つだけのご家族の防災資料です。

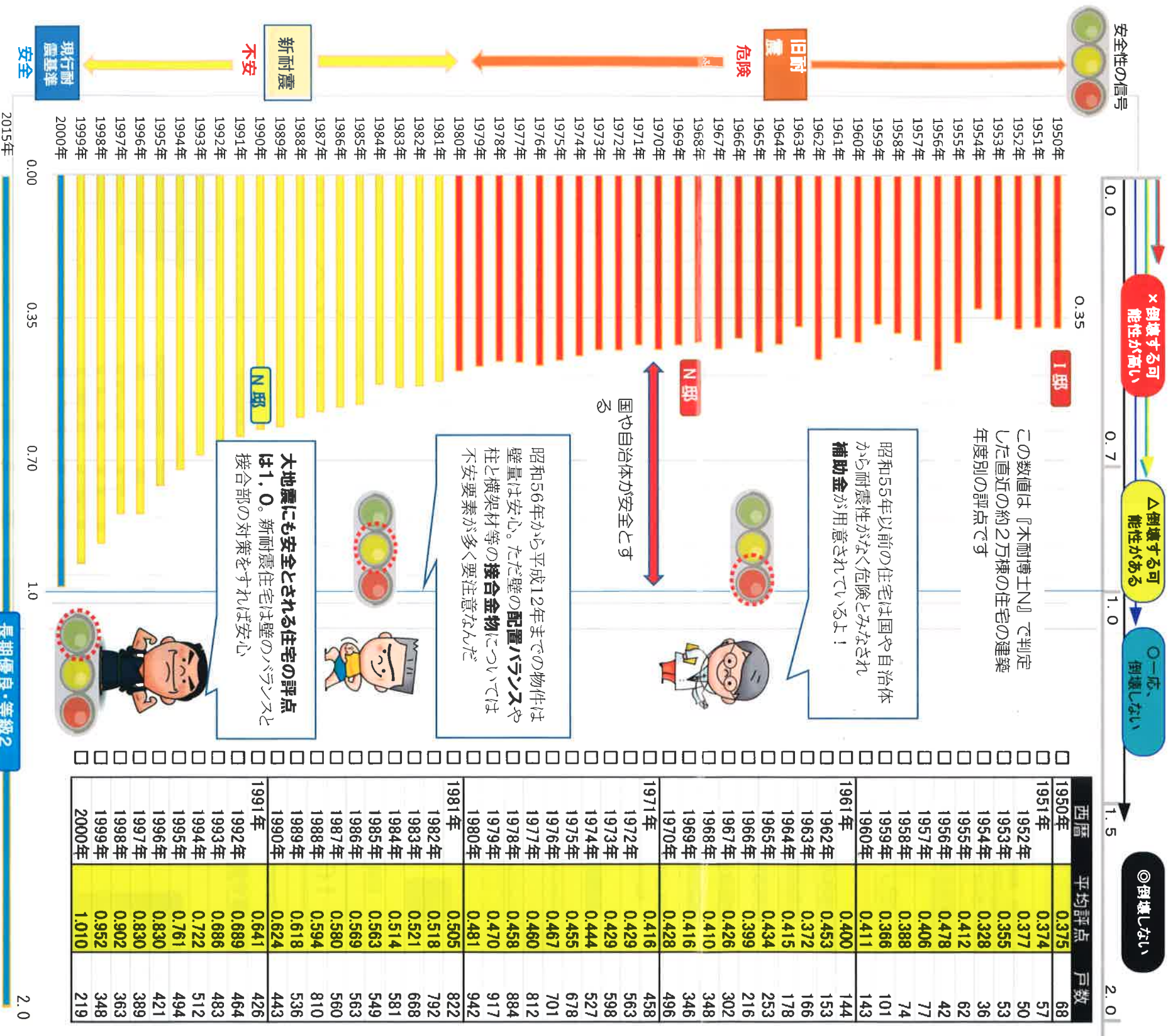
お名前			
① ご住所	() 府・県	() 市	
② 築年数	昭和() 年	③ 延べ床面積	約() m ²

【なぜ耐震に力を入れるのか?】

地震大国である日本において、マンションや学校・施設等の耐震化が進む中、木造戸建住宅の耐震化は遅れています。2020年までに耐震化率95%を目指す国の耐震化の目標に弊社もチャレンジします。



【ご自宅の耐震性の目安...『評点』や『旧耐震』『新耐震』という用語をまずはご確認ください】



【上記の評点のご自宅が、大地震(震度5強)時にどうなるかその地震動画を疑似体験しましょう!】

実際にどのような地震が発生する可能性が高いかは、自治体の『耐震改修促進計画』で確認できます。



「震度5強」で検索

[今の評点で大地震が発生するとご自宅はどんな損傷を受けるか？ご確認下さい。]

【耐震改修チャート】

震度	5弱	5強	6弱	6強	7
被害					
無被害	1.0	1.3	1.3	国や自治体が安全とする耐震性は、評点1.0！	
小破	0.4	0.7	1.3		
中破		0.7	1.0	1.3	
大破		0.4	0.7	0.7	1.0
倒壊			0.4	0.4	0.4

出典：井戸田秀樹、瀧岡慎悟、梅村恒、森保宏：在来軸組木造住宅における一般耐震診断の評点と損傷度の関係
耐震改修促進のための意思決定支援ツールに関する研究（その1）、日本建築学会構造系論文集 第612号、pp.125132、2007年2月

震度5強の大地震発生時に**評点の目安**から、ご自宅は

<input type="text" value="cm"/>	倒壊	大破	中破	と推定されます
	以上変形し	小破	無被害	

被害の様子	修復の可能性と被害状況
無被害	ほぼ無被害 ● 仕上げのモルタル、漆喰などに軽微なひび割れが発生する可能性がある。 ● 壁紙にシワが寄ることがある
小破	継続使用可・軽微な補修要 ● 部分的なタイルの剝離 ● 窓周辺のモルタルなどにひび割れ ● 壁紙の部分的破損 ● 瓦のすれ、部分的落下
中破	多くの場合避難生活 かなりの修復費用が発生 ● 外壁の剝離、脱落 ● 窓、扉の開閉不具合 ● 内装仕上の剝離
大破	避難生活・修復困難 ● 内外装の激しい剝離 ● 大きな柱の傾き ● 窓、扉の損壊 ● 余震による倒壊の可能性
倒壊	命を落とす危険性大 ● 室内空間がなくなる ● 近隣への影響大 ● 火災発生の可能性大

※ 変形 揺れているときに家全体が横方向に変形した大きさを意味します。

[では、安全基準とされる評点1.0までご自宅の耐震性をあげる工事費用はどれくらいか、ご確認下さい。]

耐震改修工事費の概算を知る方法は？

編集 財団法人日本建築防災協会

耐震改修工事費の目安は、最低でも1.0以上としましょう。

住宅の延べ床面積（1階と2階の床面積の合計）と、住宅改修前後の住宅の評点差から、耐震改修工事にかかるおおよその費用を出すことができます。

耐震改修後の評点は、最低でも1.0以上としましょう。

※単位費用を用いて算出した耐震改修工事費は、おおよその金額であり、実際の金額と異なる場合があります。積算の費用を知るための参考としてください。

耐震改修工事費 (円/割点・㎡) × 耐震改修後の評点 (目標) × 延べ床面積 (㎡) = 27,000 × () × () = 円

例 延べ床面積 120㎡で、耐震改修前の住宅の評点が0.5の住宅を1.0に上げる時にかかる費用の目安は・・・？

耐震改修工事費 (円/評点・㎡) × 耐震改修後の評点 (目安) × 耐震改修前の評点 × 延べ床面積 (㎡) = 27,000 × (1.0 - 0.5) × 120 = 162万 円

[具体的な耐震工事や安全対策工事の費用の目安をご確認下さい。] ☆=補助金に原則対応、□オススメ工事



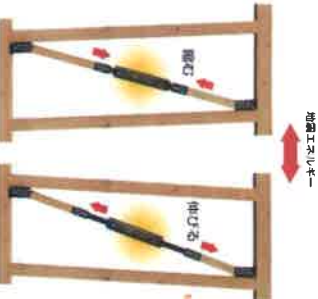
基礎ビド割れ補修 1万円/箇所



外付HD金物 万円/箇所



☆耐震ボード 万円/箇所



☆制震ダンパー 15万円/箇所



各屋根材との重量比較



☆屋根軽量化工事 万円前後